



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 丸岡 靖史
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

美容歯科医療の真髄とは

美容歯科 科長 真鍋 厚史

様々な街角で歯科医療の看板、広告に審美歯科、美容歯科などという言葉をよく目にすると思います。そしてその治療内容は歯を白くする、形をカッコ良くする等、ご本人のお口の中で気に入らないところをなんとか克服してくれないかと思っ
て来院します。またカウンセリングをして診療費を聞いてびっくりし出直す、諦めるなんてことも多々あるのではないのでしょうか。

ご存知の通り日本は国民皆保険制度を施行しており老若男女全ての方が適用されています。しかしながらこれには必ず傷病名と言ってむし歯、歯周病など病気があると診断されなければ適用されません。ですから歯科検診は保険適用外になります。同様に歯を白く綺麗な形にすることも保険適用外になってしまう場合があるため診療費等を聞いてびっくりし受診を躊躇したり諦めたりすることになるのです。

では真の美容歯科医療とはいかなるものでしょう。それは患者さんご自身が口腔内に違和感がある、痛い、腫れる、しみるなどという訴えから歯科医院を来院し、むし歯や歯周病の治療、親知らずの抜歯など様々な治療を受け歯科医師から『さあこれでお口の中には疾病がありませんよ』と報告を受け、『あーやっと終わった、もう歯医者には通わなくていいんだ』なんてお思いになるでしょう。しかしここからが本当の美容歯科治療のスタートです。つまり疾病のない口腔内を如何に持続して保つことができるかが非常に重要な課題となります。すなわち患者さんが歯科医師、歯科衛生士と相談して健康になった口腔内をどのくらい

の期間維持できるかを考えて3ヶ月に1回、あるいは2ヶ月に1回等、個々の健康状態で、チェックアップの期間が変更されてきます。このような来院スタイルを持続することがまさに美容歯科医療と言えます。さらに定期的な口腔内の持続的管理を歯科医院で行っているうちに歯の漂白でもしてもっと綺麗に、美しくなりたいという願望も出てくるかもしれません。

巷にはエステ感覚のホワイトニングショップなども出店されています。これは通称セルフホワイトニングと称されお客様の責任の中でご自身でホワイトニングをしてくださいということです。すなわちホワイトニングで歯がしみるようになったり、何回やっても白くならないということがあっても、お客様責任ですから料金は支払わなくてはなりません。このような事態に巻き込まれないためにも、必ず歯科医師からのアドバイスを
受け歯科医師の元でホワイトニングをすることをお勧めします。

最後になりますがなにかご不明な点、ご質問がございましたら4階美容歯科までお気軽にお越しください。



昭和大学歯科病院

ホワイトニング外来



口元から
より美しく健康に！
—白い歯で魅力的な笑顔になりませんか？—

「美容歯科」という言葉が耳慣れない方も多いと思いますが、歯の硬組織を対象にむし歯などで失われた歯の形、機能、美しさを回復させることを専門としている診療科です。ダイレクトボンディングによるむし歯の治療、歯のホワイトニング、歯と近似した色を再現できるセラミックスを用いた治療を中心に行っております。保存修復学という学問に基づき歯科医師一人一人がMI(minimal intervention)つまり最小限の侵襲という概念のもと治療を実践しております。

「ダイレクトボンディング」

最新の接着システムやコンポジットレジン(歯を修復する高分子材料)を用いて、健康な歯質を最大限保存する低侵襲な歯科治療を提供します。一部自費診療になりますが、最新のコンポジットレジンを用いて天然歯のように復元する審美的な治療も行っています。(図.1)

前歯などの自然な美しさを求める患者さんに対してはホワイトニングを併用した治療も可能です。

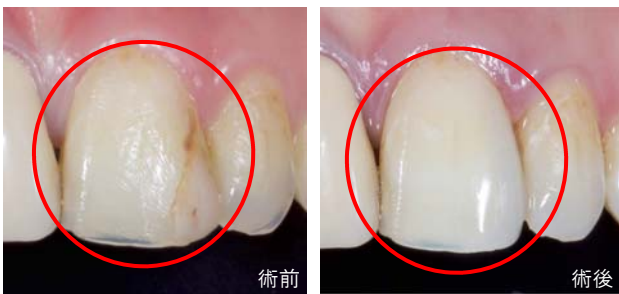


図.1 ダイレクトボンディング(術前・術後)

「歯のホワイトニング」

加齢や生活習慣などによって黄色くなってしまった歯を白くしたいと希望される患者さんは増加の一途をたどっていますが、歯の変色の原因はさまざまです。当科では日本歯科審美学会認定ホワイトニングコーディネーターの資格を持った歯科衛生士が術前検査から担当し、歯科医師とチームで適切なホワイトニングを実施します。

「セラミック材料を用いた治療」

セラミックスを用いた修復を積極的に行っています。以前はセラミックスを用いた詰め物は壊れやすいというイメージがありましたが、近年では従来のセラミックスより強度が向上した材料が開発され用いています。

また、CAD/CAMシステムを用いたセラミック修復もおこなっております。(図.2)(図.3)



図2 CAD/CAMシステムを用いたセラミックインレー修復



図3 CAD/CAMシステムを用いたセラミックインレー修復(術後)

「予防と管理」

むし歯の予防、管理も積極的におこなっており、さまざまな検査を用いてむし歯のリスクを判定し、専門的立場からのアドバイスをしております。

審美的な改善はQOL(quality of life)を向上させ、健康増進をはかることに繋がります。

何かお困りのこと、ご希望ご興味のある方は、お気軽に4階美容歯科の歯科医師、歯科衛生士にご相談ください。



美容歯科スタッフ

今回は、歯周病治療の流れの後半部分についてお話しします。

前回説明をしましたように、歯周基本治療の後に、歯周組織検査の二回目(再評価という)を行い、歯周ポケットが残ってしまった場合には、歯周外科を行う事になります。歯周病の程度に関わらず、口腔清掃状態の改善(丁寧なブラッシングの習慣化)が大前提です。それができていないと、どんなに最新の手術法や再生治療薬を使っても、決して歯周病の完治には至りません。全ての患者さんに当てはまる本質的なことですから、忘れないようにしてください。また糖尿病を患っている場合や、治療薬の影響がある場合も慎重に判断しますので、主治医にご相談ください。

●歯周基本治療後の再評価と歯周外科の判断

歯周基本治療のあと、再評価を行い、歯周ポケットが残っている部分を対象に、歯周外科を検討します。歯周外科の基本はフラップ手術ですが、歯周組織の破壊のパターンや程度によって歯周組織再生のための薬剤を併用することがあります。また、高血圧治療薬の影響などによる歯肉増殖では、歯肉切除術を行う場合があります。今回は、フラップ手術と再生治療薬について紹介します。

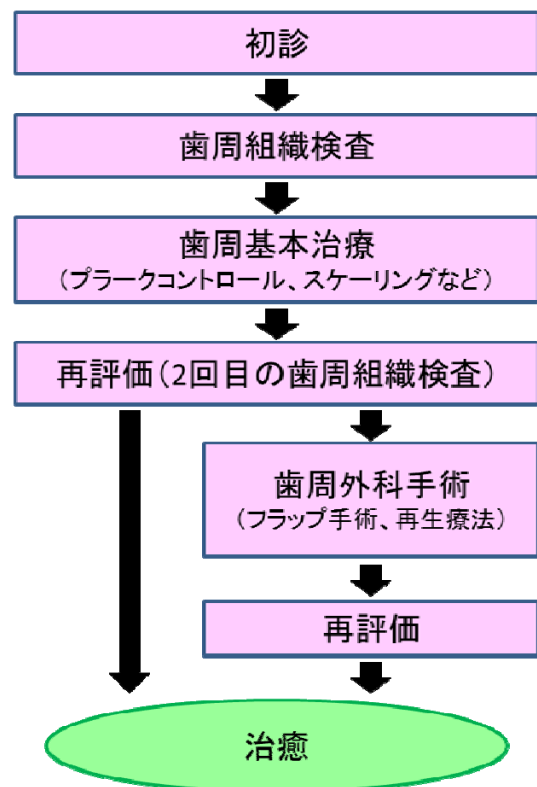
●歯周外科治療(フラップ手術)

局所麻酔の後、歯と歯ぐきの境目からメスで切開を入れ、歯ぐきを顎の骨(歯槽骨)から剥がし、歯根や歯槽骨を露出させた状態にして、炎症を起こしている不良肉芽やプラーク、歯石を取り除きます。その後、歯ぐきを元に戻して縫合します。1-2週間で糸を抜きます。歯ぐきの性質としては正常に戻っていきませんが、下がってしまった歯ぐきや歯槽骨はほとんどもとの高さに戻りません。術後に起こりえる歯根露出や知覚過敏症などを考慮して計画をします。

●最新歯周組織再生療法/リグロス®

2016年から保険適用となった「リグロス(一般名トラフェルミン)」を用いる方法です。フラップ手術に併用し、むきだしになった歯根にリグロスという液状の薬剤を塗布します。この薬には、骨の再生や血管の新生、細胞を増やす効果の期待できる「FGF2」が含まれていて、術後9カ月の観察により歯周外科に対して有意に歯周組織が再生したことが確認されています。血管新生を促進するために、口腔にがんがあると行ってはいけなくなっています。初めにも書きましたように、口腔清掃が上手で習慣化されていないと効果はほとんど期待できません。また、完全にもとの状態に(例えば20歳代の時のように)戻ることはなく、過大な期待は禁物です。リグロスが使えなかったときに比べると、外科処置後の組織のボリュームが維持されやすくなりましたが、術前の手術の説明をしっかりと聞いて、利点欠点を良く理解のうえ手術を受けるようにしてください。

歯周治療の流れ



昭和大学歯科病院の薬局では4名の薬剤師が勤務しており、外来や入院患者さんの調剤、院内各部署への薬品の払出、手術に使用した薬品の確認と補充、入院患者さんへの服薬説明などを中心に業務を行っております。外来においては国の方針により、多くの病院が院外処方箋を発行しており、お薬は保険調剤薬局で受け取るようになっています。昭和大学歯科病院もこの方針に従い、院外処方箋を発行しているため、多くの外来患者さんは病院内で働いている薬剤師の姿を目にすることが少ないでしょう。しかし、病棟では病棟担当の薬剤師を見ることができます。病棟担当薬剤師の仕事は入院患者さんの常用薬確認、服薬説明、退院時にお薬を渡すといった事だけでなく、常用薬と病院で処方された薬の飲み合わせが悪くないか、患者さんの体重からみて適切なお薬の量なのか、などを考えて歯科医師と話し合いながら患者さんにとって最適なお薬を提供できるよう、日々取り組んでいます。



入院患者さんの薬を1回服用分ずつにするケース

また大学病院ということもあり、学生教育も行っています。昭和大学薬学部の学生が病院実習を行う際、歯科病院でも実施されることがあり、歯学

部の学生とも交流を深めています。

さて、もう一つ国が大きな目標を掲げて取り組んでいることがあります。それは「無駄な抗菌薬の使用を減少させる」ことです。耐性菌の出現を防ぐため、効果が期待できない抗菌薬を安易に使用しない、使用するときは必要最低限の日数で使用する、などを啓発する必要があり、当院でも薬局が資料などを提示して改善できるよう取り組んできました。現在では以前と比較して大きく抗菌薬の使用法が変わってきており、僅かではありますが貢献できているものと考えています。

最後にお願いとしまして、是非お薬手帳を皆さん1人1冊お持ち下さい。複数の医療機関を受診されて、それぞれお薬が処方された場合、お薬手帳に記載されていれば同じお薬が処方されても分かりますし、飲み合わせの悪い場合も分かりますので、医療機関を受診される際にはお薬手帳をお持ちになり、主治医あるいは薬剤師に御提示下さい。また災害時にも常用薬の代替薬がすぐにわかりますので、保険証などとあわせて保管するようにして下さい。

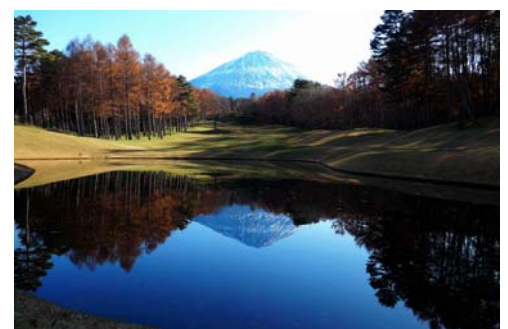


薬局 スタッフ

編集後記

朝夕、めっきりと涼しくなってきました。読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋、皆様どのような秋をご堪能でしょうか。

平成最後の秋が実り多き日々になるように過ごしていきたいですね。
(Y.N)



逆さ富士 撮影:佐藤 裕二